

1 学校評価（自己評価）の分析と考察

(1) 各学部の取り組みについて

教員については、どの学部においても精一杯それぞれの課題に取り組んできたという意識がうかがえる。取り組みの効果についても、「まだもう少し何かできたかも」という部分もありながら、全般的には児童生徒それぞれに応じてある程度目標を達成できたとする自己評価である。

保護者においては、非常に高い関心を持ち、客観的に評価していただいていると感じる。ただ、教員に比べまだ満足度は低く、C～Eの評価が目立つ項目もある。今後の課題として、学校から保護者に向けて、日々の学習活動の内容や児童生徒の様子についてしっかりと情報を発信し、連携して個々の児童生徒の学びや育ちを支える体制を整える必要があると考える。

(2) 各分掌部の取り組みについて

評価基準に「E」（知らない・わからない：0点）を設けたことで、「**学校からの情報発信**」という部分に大きな課題があることが顕著となった。例えば教務部の「ICT機器の活用」であるが、実は今年度ほど整備が大きく進んだ年はなく、「職員研修」としていた目標を大きく上回り実際に日々の行事や授業で機器が積極的に活用されている。にもかかわらず、保護者からの評価は非常に低い。保護者の方々が、「ICT機器の活用」について、リモート授業等、校内だけでなく家庭や社会とつながる形での活用を具体的にイメージされているならば、確かにそれには遠く及ばない。しかし原因はそこではなく、明らかに学校からの発信が不足していると考える。全児童生徒1人に1台のiPadが確保され、日々、教室では電子黒板を使って授業が展開されている。機器を上手に操作できる児童生徒も非常に多い。今年度は授業参観や各種行事も少なく、学校での活動の様子が伝わりにくかった分、日常のそういった一つ一つの取り組みの様子を、より丁寧に発信していくべきであった。

感染症対策についても、学校の意識と保護者の評価に大きな乖離がみられる。全般的な教室等での対策はお伝えしていたが、スクールバスや給食での具体的な対策内容については十分に発信できておらず、保護者にとっては不透明で不安な部分が残っており、それがC～E評価につながったと考えられる。

また、児童生徒会の活動については、学部学年でも保護者の評価の傾向が分かれた。今年度、児童生徒会の活動自体はいろいろな制限がありつつも工夫を凝らし活発に行っていたが、活動の中心を担うのが高等部の生徒であることもあり、学年が低いほど評価は「E」に流れた。今後は、児童生徒会の活動の内容や様子について、様々な機会をとらえて発信していく必要がある。

根本的な体制やシステムの再考・整備が必要と考えられるのが総務部や進路指導部である。

総務部では、今年度ホームページでの情報発信を目標とし、改善を図ってきた。確かに発信回数は増加し、それに対する評価もいただいたが、未だに「ほしい情報が少なく使いにくい」ホームページの感が拭えない。令和3年度にかかるかもしれないが、現在本校でもホームページの改編に向け準備を進めている。今回の学校評価も参考にしながら作業を進めたい。

進路指導部については、やはり学部学年で事情が異なる。本校の進路指導部は主に高等部卒業後の進路保障を担っており、小中学部の保護者向けに直接進路関係のアナウンスをする機会は極めて少ない。ホームページに進路関係の情報がないこともないが、必ずしも小中学部の保護者の方々が求める内容ではない。しかし、進路についてはどの学年の保護者も関心が高く、それぞれの事情に応じて様々な情報を求めている。今後、それらの期待にも応えていく必要がある。また、高等部や分教室についても現状で満足というわけではなく「かゆいところに手が届いていない」という思いのある保護者の方々も一定数存在する。それぞれの学部学年のニーズに応じた情報を発信できるよう、今後も改善できることから地道に取り組みたい。

(3) 保護者アンケート自由記述について

自由記述は総数 50 件。温かい言葉をたくさんいただいた。ご意見等（18 件）の主な内容は次の通り。

① 感染症対策について

しっかりなされているのか？バスの窓が開いていないように感じる。個人懇談は学校で対面という選択肢しかないのか？ 等

② 学校ホームページについて

見にくいのでリニューアルしたほうが良い。あまり活用しない。日々の様子の発信や更新が少ない。動画や写真を発信してほしい。児童生徒会の活動の様子も見たい。等

③ ICT 機器の活用について

進んでいるとは実感できない。事例を発信してほしい。 等

④ 家庭との連携、情報の共有等について

学校の様子が分かりにくい（今年度は致し方ないとは思っているが）。個々に合った宿題を出してほしい。 等

これらのご意見についても全教職員で共有し、学校として意思統一したうえで改善を図る必要がある。

2 学校評議員助言

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第 2 回学校評議員会は書面により開催した。学校評議員の方々からいただいた助言の要旨は以下の通り。

(1) 各学部の取り組みについて

① 他学部の取り組みについて研修し合う機会があってもよいのではないか。

② 中学部が、小・中・高の連続性と継続性の要（かなめ）となっていることを大いに評価するが、どのような連携が具体的に知りたいところ。

③ 先生方の間で、確実に情報共有や引継ぎを行ってほしい。子どもへの接し方や問題行動への対応について、（事例をあげての）勉強会などにも取り組んでほしい。

(2) 各分掌の取り組みについて

① 感染症対策には敬意を表する。大変な 1 年だったと思うが、今後に活かせる収穫もあったのではないかと推察する。

② ホームページや ICT 機器を活用し、動画や写真も添えて、保護者や地域に元気が出る情報発信（世に光）をお願いしたい。

③ 学習指導要領の研修会は、個別の指導計画につながる内容や小集団開催等、工夫するとよい。

(3) 学校運営全般・その他について

① 保護者の評価がやや低い項目があるが、学校からの情報発信に課題があることが明確になったので、今後の改善に期待する。

② 情報発信が大切なことは理解できるが、全学部学年の様子をつぶさに掲載することは難しい。発信の方法を工夫する必要があるだろう。

③ 保護者の自由記述にある「ICT 機器の活用」「家庭との連携、情報の共有」は、保護者としては一番気がかりな課題。普段から保護者と深く連携してほしい。

④ 先生方の自己評価は信用できない部分がある。いつ、どこで見かけても「言っていることとやっていることが一致している」と思える先生方でいてほしい。

⑤ 歴史的にも国難といわれる危機に直面した時にこそ、新たな文明や文化が生まれる。学校・保護者・地域が連携・協力し、一つとなって危機を乗り越えてほしい。

3 令和3年度に向けて

学校評価（自己評価）結果及び学校評議員助言を学校全体で共有し、学校としての改善点を共通理解する。各学部学年及び分掌間でより効率よく効果的に改善に取り組めるよう令和3年度へ引き継ぐ。令和3年度に向けた取り組みポイントは以下の通り。

(1) 小・中・高を見通した指導と学部間連携の強化

学部目標については、児童生徒の発達段階等を踏まえつつ、小中高の12年間を見通した一貫性のある目標設定を重視する。全校チーフ会や学部長会、各学部連絡会等を通じて、学部間で連携しながら検討、決定していく。

各学部（小・中・高及び分教室）の取り組みを知り合うことができる機会を検討、設定し、互いに刺激を与え合いながら教育内容のさらなる充実を図る。

(2) 児童生徒の情報共有及び引き継ぎの徹底

平素より保護者と密に連携を取り、担当教員間で情報を共有してチームで児童生徒の指導支援にあたるという意味統一を図る。

進級・進学時には、児童生徒や保護者の視点に立って引き継ぐべき情報を整理し、確実に引き継ぎが行える時間と場所を確保する。

保護者・福祉事業所・学校の三者の連携を充実させるため、PTAや関係各機関とも連携しながら、より良い連携システムを検討・構築する。

(3) ICT機器を活用した教育活動の展開

ICT機器を活用した先進校の取り組み事例などを全校に周知するとともに、その使用・活用についての研修等を行い本校職員のスキルアップに努める。

校内での指導支援の取り組み事例についても、共有し互いに刺激し合えるような機会を確保する。

教員の研修、地域や保護者対象の各種説明会、個別の懇談等におけるICT機器の活用の可能性について検討し、必要な環境を整える。

(4) ホームページや各種お便り等による情報発信の工夫

学年・学部・学校や各分掌等からの通信、ホームページ、メール配信等を通じて、必要な情報を確実に発信する。ホームページでは、学校行事の案内や、学校の様子のブログアップを迅速に行い、掲載回数を増やす等、保護者や地域のニーズに応じた情報を発信できるよう工夫する。写真や動画については、個人情報の保護を徹底したうえで効果的に活用する。

(5) その他

学習指導要領について、効果的な研修の持ち方を工夫し、周知徹底を図る。

新型コロナウイルス感染症対策を継続・徹底する。日常の指導場面からスクールバス、給食、教材教具の使用法に至るまで、安全性を確保できる体制を再確認し意思統一を図る。

進路指導については、学年・担任と十分に連携し、丁寧に進める。令和3年度は一般就労の状況が厳しいことも予想されるため、県の就労コーディネーターとも連携し情報収集に努める。